室源氏
小蝶乃満記

室町源氏胡蝶巻
柳亭種彦作
梅蝶楼画図
上

九曜文庫

結せ馴らる髪結い根締の工合揃取迄斯せバ着宮の意の
悩ふうし手ふ馴脫ふ加減を忘れまで上手とも叮嚀とも賞して
愛顧を得ふ至まで。倘此仁の他行して一日代の入車あらバ揃が
痛剃刀が前ぎをるとその大嚊卅も此編い御馴染の暖簾ふつけし
三ッ彦の花押年經し柳床文章匠の綿密家耳かし臭の穴
迄も。繊細ふ綴るすゝ愉快い中〱言も盡まず。然いあれバとて
文宗い過し七月十六日閻魔の聽場へ趣けバ未ど剃刀も
附焼刃の僕ふ次編をとし梓元の勸めふ揃の歯も立めぞ。麁漏
鬂の曲形先人名前で御機嫌を取結びしも十袋足らすぞ。
是迄御史の散し髪そろし結局期ふ至りて編著が異なあバ
嘸やし。御氣味惡も御許ありて手箒の底へ投込ふ去給ざるをやう
ねがひのふきん

山々亭有人作

偽花園
秋津
廣沼
信濃
北小路
通氏

二

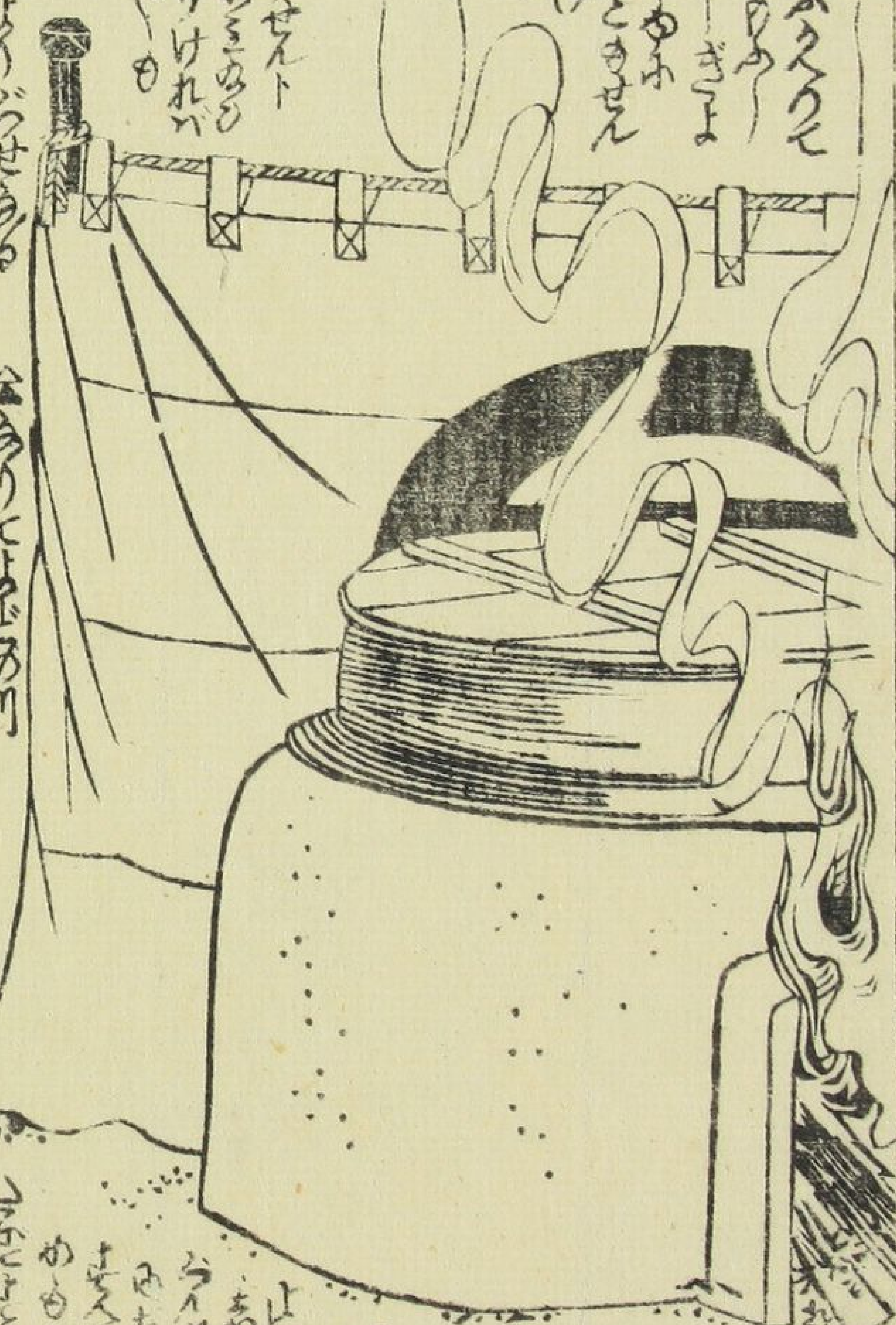
種彦遺稿 豊國画 有人校訂

（つゞき）不忠ものゝ [illegible]

[illegible] 水山の [illegible] 大河が [illegible]

[illegible] 木津川 [illegible]

[illegible]



[illegible] 下の巻へ入

柳蔭月朝妻（やなぎかげつきのあさづま） 十編 大尾 山々亭有人作 梅朝樓國貞画

藪黄鶯八幡不知（やぶうぐいすやはたのやぶしらず） 十編 大尾 山々亭有人作 錦朝樓芳虎画

阿玉ヶ池櫛月形（おたまがいけくしのつきがた） 五編 大尾 為永春水作 梅堂國要画

八犬傳犬の艸紙（はっけんでんいぬのさうし） 六十 大尾 柳淨作 國政画

小學行儀法 全一冊

本家 實母散（じつぼさん）

うんぜんさんで ふじんちのみち 一切の妙薬

中橋南傳馬町東側 千葉堂[illegible]

豐國画
商人作
二十三

東海

小てふ乃まき

五十三驛

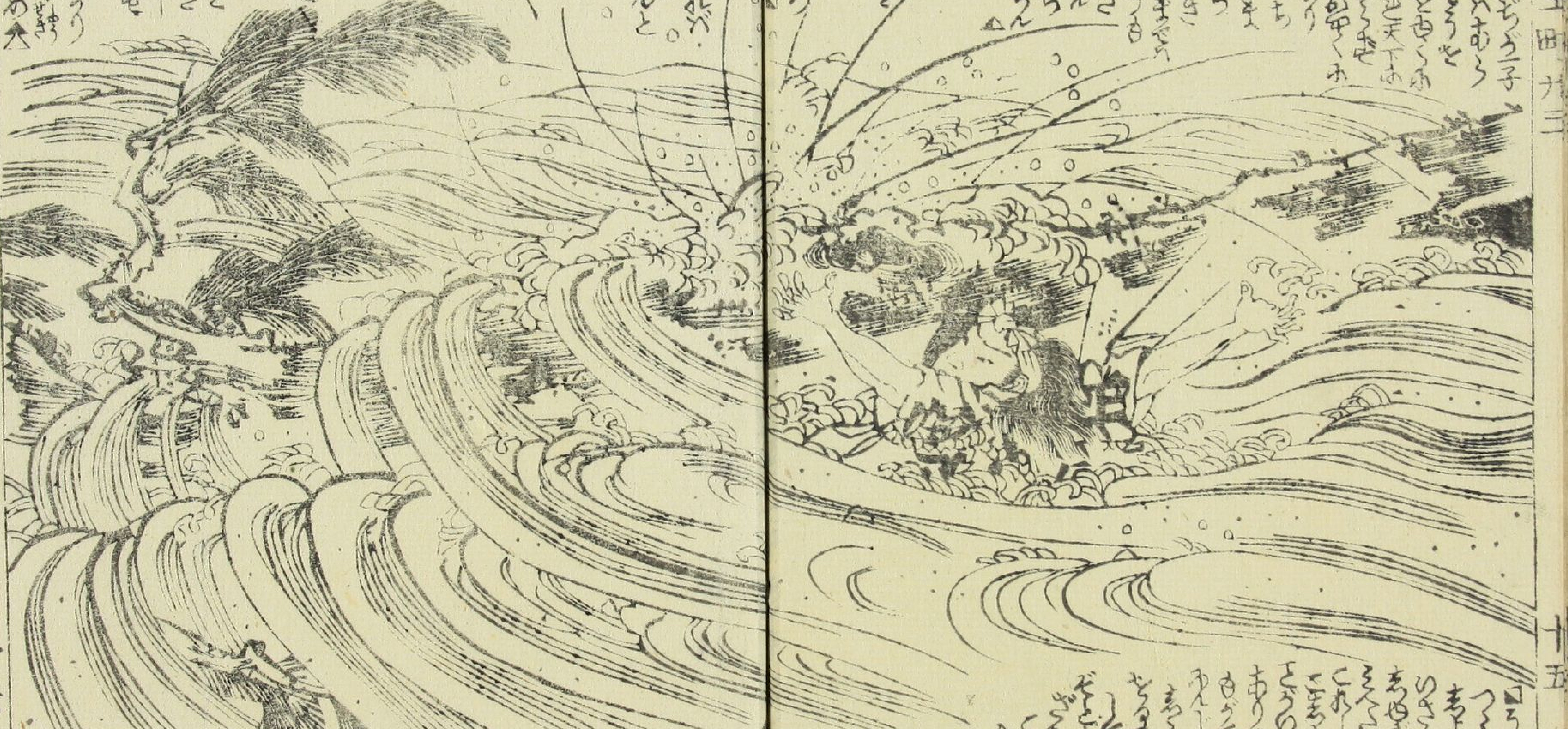
貞画

下

文庫

「つぶ九」わざへうんぢうぶ子
さるあいだのみぞへむら
さかりのはさらゆきうを
ひきよせ平地にかとさくふ
とさらぬさをみて乱天下は
ともりしよりるものくるかせ
しものそうのあ中くふ
さうべ九めまよしとあり
くべきもののそともち
ひねずとよりにたるまし
あさとあわりくめがくら
めーひかあひやくてしき
こんなたよるるこれはあぞく
みかつぞちう白
めくのさき
あゆじん
とうら
とうらん△
今田の
ぜよ
ひきとく
のさあへ
ひさうぬます
さうしとうう
べもときけ「コ」
もつくらのさき
そのぎぢかうきさ
きさうてきて
あんしふくぬ
ぜうれあくのの
ぞ九てあなりの
「三の巻へ」

うくるひ
あよさの時あれば
おんうびのさん
まつ九わくらんと
ひそうふ
せうしやぶゆん
しゆふらへ
こまずそどろく
のうぜしゆり
ねがふへけふの
うちゆへさ
みんきさぶん
こまとあるうへ
とまらびらかとし
おうるかやう
ねがふしけれと
ありけまど
よしきろゆろ
こりうちわろとき
のぞひ「つる」のさき
あのそとのよし
つ九らんきふのせ
しれあふぶんの
あや丑より今よりり
きんしやの上帝せき
とし　あくらあ△



「四」うけしよりそのふ
つうせらへりさく
あたとくをゆぐり
りきくうへだしやう
あゆぎそあうるせしと
えくりきされどもあ九
これしふそさすの氏ふ
こあよくうふうつむる
さうりぶんあとさくと
ありけまだ「ござる」ゆく
もうてんやうぬへけの
ゆんじもののうちふ
あくうのぶうきり
どうのもふしぎぶどう
しそこれくさうる
ざとぶうはふうち氏
ざまぞてや世「知」れ
これはとちうぢらう
今しめきうくる
とちうゆそそう
らはだあくうのふ
やりゆあひしよう
つくろのくこまは
まそでふきやう
とううむりね
するとあうられと
さろ「四の巻へ」

あくとこのへば
そのむさとと
おとうより
あふせさけ
らまアト
あのせふ
これもつぢ
まとうへ
「ふく」
ゆりくどそ
あしうぐの
あの人へきん
きぞやう
ぬすのへ
きさろのさ
大聲ばかり
ゆそむがへ
のきてしゆ
しま高さ
あさのの人
あの世
きけられ
さまくうへ
つうまてある
のち「つぎへ」

柳亭種彦遺稿

笄月亭有人補

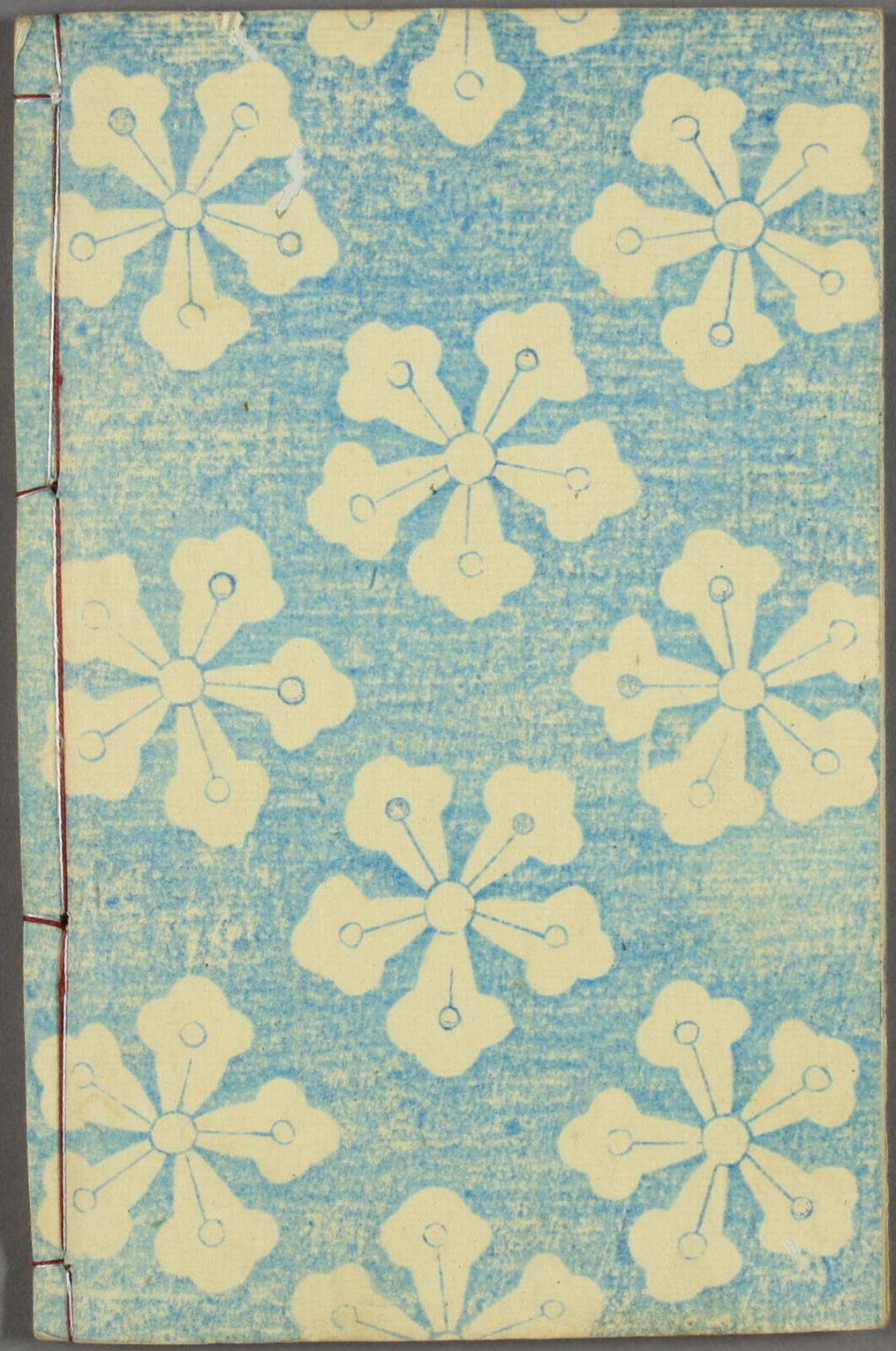
香蝶楼豊国画

梓主　紅英堂欽白

地本錦繪團扇問屋

厚化粧萬年嶋田	廾編	春水作	大尾	國貞画
室町源氏胡蝶巻	三十編	種彦作	大尾	國貞画
鼠祠通夜譚	十編	種彦作	大尾	國貞画
童謡妙々車	二十編	種彦作	大尾	國貞画
薄俤幻日記	三十編	春水作	大尾	國貞画
新局九尾傳	廾編	春水作	大尾	國貞画
筆海四國簡書	十五編	種彦作	大尾	國貞画
月日鶴墨画姻禰譜	廾編	種彦作	大尾	國貞画
花封蒼玉章	十編	種彦作	大尾	國貞画
七妙当嶋飾譚	十五	種彦作	大尾	國貞画

京橋一丁目南傳馬町壹丁目二番地
出板人　林吉藏



室まち源氏胡てふの巻
有人作
豊國ゑがく
二十三篇

小森喜之女